

音楽科学習指導案

尾道市立高須小学校

- 1 日 時 平成 26 年 9 月 18 日 (木) 第 3 校時
- 2 学 年 第 5 学年 4 組 (男子 14 名 女子 18 名 計 32 名)
- 3 題 材 名 沖縄の音階でまとまりのあるせんりつをつくろう (教材名「谷茶前」「ていんさぐぬ花」)
- 4 題材について

- 本題材は、小学校学習指導要領音楽編 (平成 20 年) の第 5 学年及び第 6 学年の内容「A 表現」(3) の指導事項イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること」及び「B 鑑賞」(1) 指導事項ア「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと」を受けて設定した。〔共通事項〕については、旋律、音階や調、リズム、変化を扱うものとする。

本題材では、沖縄の民謡の鑑賞を行った後に、沖縄の音階を使って旋律をつくる活動を行い、音を音楽に構成する能力を育成することをねらいとする。鑑賞で扱う沖縄の民謡「谷茶前」「ていんさぐぬ花」は、同じ沖縄の音階でも速度やリズムの違いによる楽曲全体の曲想の違いを味わわせることができる楽曲である。鑑賞の活動を通して、味わい感じ取った楽曲の雰囲気を生かして、イメージをもってまとまりのある旋律づくりを行うことに適した教材である。

- 本学年の児童は、音楽の授業の中でとりわけ合唱や器楽を好み、表現したいことを思いや意図をもって演奏する体験を重ねてきた。合唱においては、各パートの重なりを感じ、どのようなバランスで歌うとよいかを考えたり、歌詞に込められた思いを表現するため、発声の仕方や強弱の変化を工夫したりして、主体的に表現することができるようになってきている。器楽においては、豊かな響きを求め、音の重なりや低音の働きを感じながら楽器編成を考え、合奏に取り組む力もついてきている。一方、鑑賞においては、楽曲から聴き取り感じ取ったことを、共通事項を拠り所にして表現する力もついてきている。しかし、音楽づくりにおいては、音楽の各領域に関する調査 (平成 26 年 5 月実施) を行ったところ、旋律づくりを楽しいと答えた児童は全体の 30% であった。また、第 4 学年時に行った、「おはやしのリズムやせんりつで遊ぼう」の学習では、「レミソラド」の 5 音音階を用いて、教科書に示された図を線でつなぎ旋律をつくることができたが、思いや意図をもったり、「終わる感じ」「続く感じ」等、まとまりを意識したりすることのできる児童の割合は 35% と低かった。このような実態から、音を音楽に構成する際に、音楽の要素や仕組みを理解し、思いや意図をもった音楽づくりをすることには課題があると言える。

- 指導観

- ・ 題材構成を工夫し、鑑賞と音楽づくりを関連付けた授業を展開する。鑑賞の活動では、分析的に指導したりするのではなく、常に楽曲全体の流れの中で音楽を聴く楽しさを味わわせ、楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を音楽づくりで活用させる。
- ・ 沖縄の民謡を比較聴取する活動を導入に取り入れ、沖縄の民謡の旋律・リズム・変化が曲想の変化につながっていることに気付かせる。
- ・ 児童が「聴き取り」「感じ取った」ことを言葉で表現させたり、既習事項のリズムパターンや旋律の音の上がり下がり、リズムの変化のパターンを提示したりして、旋律づくりへの見通しをもたせる。

- ・ 表現したい沖縄のイメージについてのテーマを決め、グループで音を試しながら話し合う場（音を介在させた言語活動の場）を設定する。

5 題材の目標

- 沖縄の民謡の楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くことができる。
- 沖縄の音階を用いて、音を音楽にする過程を大切にしながら、音楽の要素や仕組みを生かし、見通しをもってまとまりのある音楽をつくるようにする。

6 評価計画

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
学習活動における具体的評価規準	① 沖縄の民謡の楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	① 旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取っている。 ② 沖縄の音階やリズムの特徴や変化を生かし、音を音楽に構成するために試行錯誤をし、つくる音楽やその方法などについて自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。	① 沖縄の音階やリズムの特徴や変化を生かし、見通しをもって音を音楽に構成している。	① 沖縄の民謡の楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。

○評価方法 A 行動観察 B 演奏の聴取 C ワークシート

7 指導と評価の計画（全4時間）

次	ねらい	学習活動	規 具 評 準 体 の 価 の 価 値	評 価 方 法
第一次（1時間）	沖縄の民謡を聴こう いろいろな沖縄音楽を聴き、曲想の違いや特徴に気づき、興味・関心をもたせる。	○ 沖縄の民謡を比較聴取する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「谷茶前」「ていんさぐぬ花」の旋律やリズムの特徴を比較しながら聴き取り、それらが醸し出す雰囲気や面白さについて感じたことを出し合う。 ・ 沖縄の音階に使われている音を確認する。 	ア① エ①	A C

第二次 (3時間)	旋律づくりをしよう	沖縄音楽の旋律の特徴を生かして、2小節の旋律をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚教材を用いることによりイメージを豊かにし、表現したい音楽のテーマを決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄についてイメージしたことを話し合い、テーマを決める。 ○ 旋律をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 始まりの音や終わりの音を提示し、気に入った旋律をつくる。 ・ グループ(4~3名)でつなげて8小節のまとまりのある音楽をつくる。 	ア② イ①	A C
	グループで曲を完成させよう (本時)	つくった旋律のリズムを変化させて、旋律づくりを楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループでリズムの工夫をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2拍ずつのリズムパターンカードを用意し、そこからリズムを選び、4分の4拍子で2小節のリズムをつくる。 ・ 元の旋律とリズムを工夫した旋律を演奏し、その違いを感じ取る。 	イ②	A C
	発表会をしよう	グループでつくった旋律を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ つくった旋律を三味線の伴奏に合わせて演奏する。 ○ 他のグループの演奏のよさを見つけながら聴く。 	ウ①	A B

8 学習展開

(1) 本時の目標

旋律の動きやリズムの変化が生み出すよさを生かしながら、グループでまとまりのある音楽をつくることができる。

(2) 準備物

児童 鍵盤ハーモニカ・筆記用具

教師 掲示用資料(パワーポイント)・ワークシート

(3) 思考スキルについて

獲得させたい思考スキル	学習場面	手立て・発問	予想される児童の反応例
関連付ける	リズムに関する既習事項を活用して、リズムを変化させる場面。	<ul style="list-style-type: none"> ㊦思考ツールのパワーポイントやワークシートを活用することで、どの部分を変化させるとよいか、自分の考えが明確にもてるようにする。 ㊧提示した3つのリズムやこれまで習ったリズムを使ってメロディーに魔法をかけましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エイサーのイメージだから、リズムを細かくして弾んだ感じにしよう。 ・ 沖縄の広い海のイメージだから、ゆったりしたリズムを使おう。 ・ 子もりうたのようなイメージだから、ゆったりしたリズムを使おう。

(4) 学習展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て)	評価基準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 前時の活動の想起をするとともに、リズムの変化による楽曲の感じの違いに気付く。</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>◇ 教師のつくった2つの旋律を聴き比べ、リズムの工夫が必要であることに気付かせ、本時の課題へとつなげる。</p>	
<p>リズムの魔法をかけ、「OKINAWA」の音楽レシピを完成させよう。</p>		
<p>3 リズムのはたらきや魔法のかけ方を確認し、各自の旋律にリズムの工夫をする。</p>	<p>◇ 既習事項のリズムのはたらきや魔法のかけ方(ここではリズムの変化)を確認させる。</p> <p>◇ イメージに合う曲にするために、自分の旋律のどこを変化させるとよいかを考えさせ、リズムを工夫し、試行錯誤させる。</p>	<p>・ 沖縄の音階やリズムの特徴を生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法などについて自分の考えや願い、意図をもっている。 〔音楽表現の創意工夫〕(演奏の聴取・ワークシート)</p>
<p>予想される児童の反応 (～のイメージだから、リズムを～のようにしよう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エイサーのイメージだから、リズムを細かくして弾んだ感じにしよう。 ・ 沖縄の広い海のイメージだから、ゆったりしたリズムを使おう。 ・ 子もりうたのようなイメージだから、ゆったりしたリズムを使おう。 		
<p>===== ◆「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される児童への手立て ・リズムの変化につまずいている児童やグループには、どのような様子をイメージしているのか話させて、イメージに合わせたリズムの変化の仕方の選択肢を示し、選ばせる。 ・2小節を一度に変化させるのではなく、1小節、または2拍ずつと細かく区切って活動を進めさせる。 =====</p>		
<p>4 つくった旋律をつなげて演奏する。</p>	<p>◇ グループ活動においては、音を介在させた言語活動の場を設定し、イメージに合った音楽レシピをつくるため、どのようなリズムの工夫をしたかを、言葉で交流させる。また、全員でつなげて演奏し、前時の旋律と比べながら聴き合い、その良さを味わわせる。</p>	<p>Aと判断される状況 提示したリズム以外のリズムを用いて変化させている。</p>
<p>5 本時のまとめとふりかえりをする。</p>	<p>○ グループの友達のつくった旋律のよかったところ、友達の意見を聴いて自分の参考になったことなどを書かせる。</p>	
<p>最初の旋律はリズムが全部4分音符だったけど、沖縄の海の様子を表すためには、「ターアー」「ターンタ」のリズムを使って、ゆったりした感じを表しました。次の発表会が楽しみです。</p>		

言語活動の充実

比べる

つなげる

(4) 板書計画

沖縄の音階でオリジナル曲「OKINAWA」をつくろう

めあて リズムの魔法をかけ、
「OKINAWA」の音楽レシピを完成させよう。

魔法のかけ方

タン	タタ
ド	ドミ

パワーポイント
提示資料

タン	タタ
ド	ミミ

ター	アタ
ドー	ーミ

ター	アー
ドー	ー

ター	アー
ミー	ー